1期メンバーの認定式の集合写真

訓練の様子

イスラミックインターナショナルスクールの子どもたちへの防災学習の様子

言語を超えた災害支援を、今。

―札幌災害外国人支援チーム SAFE（Sapporo Assistance for Foreigners in Emergencies）―

市内でもっとも多い約3,200人の外国人が住む北区。彼らが災害時におかれる状況を想像したことはあるだろうか。災害が起きると日本人以上に不安を抱える外国人を支援するSAFE。今回は、バングラデシュ国籍でチームのメンバーであるカマル・シュブロ・サジャッドさん（北区在住）、チームの立ち上げに携わった札幌国際プラザの大高紡希（おおたかつむぎ）さんに話を聞いた。

大高さん　サジャッドさん

不安な気持ちに寄り添う

SAFEは、札幌で大きな災害が起きると、札幌国際プラザに設置される「災害多言語支援センター」と協力して、支援活動を行う在住外国人を中心としたボランティアチーム。災害に関する情報を多言語に翻訳・配信したり、避難所を巡回して外国人の相談に乗るなどの活動を行っている。胆振東部地震をきっかけに、災害時の外国人へのサポート体制が不十分であることを痛感し、国際プラザが立ち上げた。SNSを使ってより多くの外国人に情報を伝えたり、外国人がどんなことで困っているかの情報を集める。「支援者が同じ外国人という点で安心を与えられるだけでなく、外国人の不安な気持ちを理解できる、最も身近な存在」。大高さんはそう話す。平時には、地域の防災訓練などへの協力を行っており、最近では外国人コミュニティーの子どもたちへの防災学習にも協力した。

分からないことの恐ろしさ

サジャッドさんは「災害ニュースの内容が分からないなど、言語の違いによる情報格差が恐ろしい」と話す。また、避難所では、食べ物や文化の違いから困難を感じる外国人もおり、「そんな方の気持ちに寄り添う役割を果たしたい」とサジャッドさんは語る。

言語の垣根を超えて

大高さんとサジャッドさんは「地域の皆さんには災害時に、外国人が言葉や習慣の違いで困難を抱えていることを知ってほしい。いざという時に助け合える存在になれたら」と話す。また、サジャッドさんは「言葉が分からなくても、フレンドリーにあいさつをしてくれるだけで、とても安心する。災害時に外国人を見かけたら声をかけてほしい」とメッセージをくれた。

【詳細】札幌国際プラザ
（災害時：災害多言語支援センター）
☎211-3670
▲ホームページ